

令和 6 年度 山梨県立大学教職員表彰 対象者

山梨県立大学では、平成 22 年度に「学長表彰」の制度を設け、教育・研究や社会貢献等で特色ある顕著な業績を挙げ、大学の発展に貢献した本学教職員に対し、毎年表彰を行っております。

具体的には、次のような活動で顕著な功績があった方々を表彰の対象としています。

1. 職務上特に顕著な功績があった者
2. 法人の名誉を高める行為を行った者
3. その他特に他の教職員の模範として推奨すべき功績があった者

令和 6 年度は、以下の 9 名を表彰いたしました。

【優秀教職員賞(敬称略)】9 名(教員 6 名・職員 3 名)

- 国際政策学部 総合政策学科 准教授 大西 康雄

令和 6 年度の学部入試企画委員会副委員長として入試業務の円滑な運営において貢献したことに加え、総合型選抜入試制度の設計及び導入において中心的な役割を担った。

- 国際政策学部 国際コミュニケーション学科 准教授 橋本 憲幸

令和 6 年度の学部入試企画委員会委員長として入試業務の円滑な運営において貢献したことに加え、総合型選抜入試制度の設計及び導入において中心的な役割を担った。

- 人間福祉学部 人間形成学科 講師 林 康成

教育では、教職科目を担当し、教育工学・ICT を活用、STE A 教育を取り入れ、現代に即した教育を実践している。また、今年 3 月に博士(学術)を取得した。研究では、日本学術振興会科学研究費助成事業公益財団法人教科書研究センターからの助成を受け積極的に研究している。社会・学術貢献活動では、STEAM 実験教室を企画したり、臨床教科教育学セミナー 2024 でパネルディスカッションを主催したりと、山梨県内のみならず地域に尽力している。また、学内業務では、学部入試委員、教育プログラム運営委員、全学情報委員会を担当。特に教職や教務に関連するものについては今までの教員経験を活かし、実践に結び付くものを検討している。今後も期待できる教員である。

- 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 講師 林 智然

教育では子ども家庭福祉領域での講義科目(福祉コミュニティ学科、人間形成学科の両学科)を担当。研究においては、現在、科学研究基盤 C にて社会的養育におけるドリフトに関する研究、地域研究交流センター研究では児童養護施設における性被害及び加害の実態に関する調査研究をおこなった。両研究とも子ども家庭福祉における今日的課題

や今後の社会的養護のあり方を検討するうえで、実践に結び付く研究として高く評価できる。さらに社会貢献では、山梨および東京都内等で「子どもの人権」等に関する委員会委員や各児童養護施設等の職員の資質向上に向け、スーパービジョン等を実施している等、今後の活躍がさらに期待できる。学内業務では学部入試委員会、全学国際教育研究センター運営委員会（台湾との交流に参画）を担当し、確実に成果を残している。また、令和6年度開設された大学院においては、特に開設時は、実習先開拓、実習先との関係づくり等開設準備に尽力した。膨大な業務にもかかわらず学生の不利益にならないように責任ある業務を担った。

● 看護学部 看護学科/大学院 看護学研究科 教授 野澤 由美

令和6年度に科研費（基盤C）を研究代表者として獲得し、継続して研究活動に取り組んでいる。県内の精神看護専門看護師を活用し看護師が語り合う会の開催や、精神看護関連学会の実行委員など社会貢献活動も熱心に行った。また、長年アドミSSIONズセンター委員として広報に携わり、オープンキャンパスや高校訪問などで精力的に活動を行った。学内業務においては、教務委員として看護学部の専門性や特徴を踏まえた評価と立案をし、現在はモデルコアカリキュラム改訂に向けた看護学部の将来構想企画においてリーダー的役割を担っている。

● 看護学部 看護学科 講師 横内 理乃

平成27年度から、本学看護学部勤務し、実習助手、助教を経て、令和元年度より現職である。新カリの新規科目を立ち上げるにあたり、学生が在宅生活イメージを広げるための事例教材の作成やICTを活用した実習記録方法の開発など教育の充実に向けて取り組んだ。令和3年度から看護学部入試委員として入試準備、運営に携わり、今年度は入試委員リーダーを担い、円滑な入試が実施できるよう尽力した。社会貢献では、山梨県看護協会訪問看護等在宅ケア推進委員会の委員長として、県内の在宅ケアの推進に向けて活発に取り組み、看護職対象の在宅療養支援教育プログラムを開発に取り組んだ。

● 事務局 保健課（現 学生支援課）課長 比志 真美

保健課長として、学生および教職員全体の心身の健康管理に尽力してきた。特に、臨床心理士としての専門性を活かしたカウンセリングは、学生や教職員の心の健康維持において高い評価を得ている。また、学生が学内で心身をリラックスできる環境づくりを目指し、「気ままルーム」を発案。平成27年に池田キャンパスで導入し、令和5年には飯田キャンパスにも展開した。常に学内の誰に対しても目を配り、心に寄り添う姿勢は非常にすばらしく、本学にとって欠かせない存在である。

● 事務局 教育改革推進室 副主査 手塚 智之

デジタル化、グローバル化など社会構造の複雑多岐化が進んでいることに加え、人口減少という最難関の課題に直面し、現在、大学は存続の危機に立たされている。将来にわたって大学を維持、発展させていくためには、具体的な大学の将来像をイメージした大胆な改革が必要となっている。喫緊の課題となっている大学改革を実現するため6年度に設置した将来構想委員会において、この試練を新たな大学の価値を創造する絶好の機会と前向きにとらえ、事務局の改革リーダーとして、職員をまとめ、短期間で事務局組織が抱える課題を抽出し、将来あるべき姿を作り上げ、教務、学生支援に係る組織の再編を実現し、事務の効率化に貢献するなど、多大な功績があった。

● 事務局 学務課（現 学生支援課） 主任 遠藤 拓実

令和6年度当初に所属内で起きた学事システムトラブルという緊急事態において、担当外で自身の業務も多忙であったにも関わらず、先頭に立ってトラブルへの対応を行い、学生の履修登録、授業への影響を最小限に留めるなど、状況判断の正確さ、責任感の強さを兼ね備えている。また、他大学の事務職員等と積極的に交流を続けており、大学事務の効率化等に関する本の出版に携わるなど、自己研鑽にも余念がない。自らの職務、立場を正確に理解し、大学運営に多大な貢献をしている。